

## 第4章「基礎戦略3」

### 資源を生かす魅力とやりがいのある産業のまちづくり

一次産業を基幹産業とする当地域にあっては、「安心・安全」を求める消費者ニーズの高まりを好機と捉え、農林水産物の付加価値向上と販売力強化の視点に立った生産・流通体制の構築など一次産業の振興に取り組みます。

また、地域の特性を生かせる企業の誘致、既に立地している企業へのフォローアップなど、より一層の雇用の確保を促進するとともに、起業支援や中心市街地の活性化など商工業等の振興に取り組みます。

#### 【指標の状況】

指標名	目標の方向	基準値 (H26)	目標値 (R1)	実績値 (R1)	達成率
<b>第1節 農業の振興</b>					
新規就農者数（人）	↑	6	7	11	157%
農産物系統販売額（百万円）	↑	2,641.0	2,680.0	2,471.2	92%
農家1戸当たり乳牛飼養頭数（頭）	→	55	57	62	109%
農家1戸当たり肉牛飼養頭数（頭）	→	21	22	31	141%
産直施設の販売額（千円）	↑	442,832	446,000	420,666	94%
ベゴツアー参加者数（人）	↑	48	74	44	59%
多面的機能支払交付金事業取組農地面積（ha）	↑	293.4	320.0	303.8	95%
<b>第2節 林業の振興</b>					
未利用材活用量（m <sup>3</sup> ）	↑	0	7,000	6,295	90%
木炭生産量（t）	↑	600	672	587	87%
原木乾しいたけ生産量（kg）	↑	7,921	8,871	4,249	48%
<b>第3節 水産業の振興</b>					
共販品取扱実績（千円）	↑	349,179	360,000	302,452	84%
久慈港水揚げ量（t）	↑	10,560	12,000	7,113	59%
さけ種苗放流数（千尾）	↑	27,500	30,000	19,800	66%
産業別就業人口に対する漁業就業者数の割合（%）	→	2.15	2.07	2.09	101%
<b>第4節 商工業等の振興</b>					
久慈ふるさと創造基金利用件数（件）	↑	0	1	1	100%
起業・立地奨励補助金利用件数（件）	→	2	1	0	0%
やませ土風館・駅前複合施設の利用者数（人）	↑	773,659	864,000	745,534	86%
久慈管内新規高卒者の管内就職率（%）	↑	34.0	38.0	42.8	113%
研究機関との連携による新商品・新技術の開発（件）	↑	0	0	1	100%
<b>第5節 観光の振興</b>					
観光客アンケートの満足度（%） ※1	↑	—	60	※	—
秋まつり観光客数（人）	↑	109,000	125,000	101,500	81%
案内看板の設置数（基） ※再掲	↑	2	14	22	157%

※1観光客アンケートの満足度については、三陸DMOセンターのマーケティング調査結果によるがR1は三陸沿岸地域全体のデータのみ公表されていることから、実績値を未掲載とした。

目標の方向が「↑」の場合：実績値が大きいほど良好な結果であり、達成率は大きくなる。  
 目標の方向が「↓」の場合：実績値が小さいほど良好な結果であり、達成率は大きくなる。

## 【総合評価】

### 【第1節 農業の振興】

農業の振興については、就農相談会や新規農業者の資金支援等により、新規就農者は11人となり、目標を上回りました。また、基幹作物の振興については、菌床しいたけや雨よけほうれんそう用ハウスの導入を支援し、経営基盤の強化を図りました。

また、園芸・畜産団体に対して、機械・施設等の整備支援を実施し、農家一戸当たりの乳牛・肉牛飼育頭数も目標を達成しました。しかし、市内の飼養農家は減少傾向にあることから、今後も担い手の確保、生産基盤の強化、規模拡大及び効率化に向けた対策を関係機関・団体と連携して取り組みます。

### 【第2節 林業の振興】

森林の管理については、平成31年4月に森林経営管理制度が施工され、二酸化炭素排出抑制や災害防止の観点からも重要視されています。市有林においても、適正な管理により財産価値を高め、将来的な歳入確保につながることから、今後も継続して整備を推進します。未利用材の活用量は、市内で木質バイオマス熱供給施設が稼働していることから、年々増加しています。今後も、地域木材の有効活用と地産地消の推進に取り組みます。

木炭生産量は、587+と横ばいで推移しています。今後も、新規参入者への支援を行うとともに、G I 認証によるブランド化を機に、新たな販路拡大に努め、品質管理設備等への支援に取り組みます。

### 【第3節 水産業の振興】

久慈市営魚市場の水揚実績は、数量で7,112トン、前年度比96.1%、金額は13億6,208万円で、前年度比79%となっており、数量、金額ともに減少となりました。理由としては、当市場の主力魚種であるスルメイカ、更に秋サケの不漁が重なったことが挙げられます。

水揚げ実績は、漁場環境や外来船の入港状況にも影響を受けることから、今後も久慈市漁業協同組合等と連携し、関係漁協や船主、関係団体を訪問する漁船誘致活動を推進するなど、外来船受け入れ体制の強化に努めます。

担い手育成対策については、令和元年度における新規漁業就業者は2名でした。久慈市漁業協同組合の組合員数は減少傾向にあり、担い手の育成が重要な課題となっていることから、今後も、久慈市漁業協同組合と連携し、関係機関・団体と一体となって、担い手確保対策に努めます。

### 【第4節 商工業等の振興】

商工振興については、起業支援として実施した個別相談件数は6件であり、うち2件が創業となりました。引き続き、商工会議所、金融機関等の認定支援機関と連携し、きめ細やかなフォローアップに取り組みます。雇用の場の創出については、市内事業者による新事業展開や販路開拓等による地域経済の拡大が不可欠であることから、フォローアップ訪問を行い、企業課題の掘り起し、各種補助金等への申請支援、販路拡大に係るマッチング支援等を行いました。また、久慈管内の新規高卒者の管内就職率は、42.8%と目標を達成しており、今後も就職相談会や採用研修会等を実施し、若者の地元定着に取り組みます。

中心市街地の活性化については、屋外イベントや市民カルチャー講座等を開催し、延べ8,889名の参加者がありましたが、やませ土風館・駅前複合施設の利用者数は、745,534人と、前年度より減少しました。これは、1月以降の新型コロナウイルスの感染拡大により、観光客等の移動が制限されたことが要因となっています。

駅前複合施設につきましては、令和2年7月にオープンとなることから、今後も市民生活と商業、観光が融合した回遊性の高い街づくりに取り組みます。

#### 【第5節 観光の振興】

観光施設の維持管理を行うとともに、関係機関、一次産業従事者、商工業者、地元住民とともに各種誘客イベントを実施しました。また、観光情報の発信については、テレビや雑誌、SNS等の多様なメディアによる情報発信に努めました。

ロケツーリズムについては、映画「星屑の町」のロケ誘致に成功し、市民と一体となって受入を行ったほか、出演者等を招いたプレミア上映会やロケ地マップ等を作成し、ロケツーリズムの推進に取り組みました。

観光客数は、上期は好調であったものの、新型コロナウイルスの影響を受け、下期は減少に転じており、今後は、新たな観光スタイルや受入様式等を検討し、関係者と連携して取り組みます。

## 第4章 基礎戦略3

### 資源を生かす魅力とやりがいのある産業のまちづくり

#### 第1節 農業の振興

##### 【令和元年度の取組】

##### ①担い手農家の育成・確保（農政課）

###### ・いわて地域農業マスタープラン実践支援事業

認定農業者、青年農業者、集落営農組織、中心経営体等の育成・確保や、園芸・畜産等の産地拡大の取組を加速するため、園芸6団体、畜産7団体の機械・施設等の生産基盤の整備を支援しました。

###### ・新規就農者育成確保対策事業

新規就農者確保のために、就農相談会を実施しました。

###### ・農業次世代人材投資事業

国の新規就農者の支援策である農業次世代人材投資事業により、就農直後の負担を軽減させるための資金を交付し、4経営体の経営支援を行いました。

・県営事業により、補完工事、換地業務を実施しました。

##### ②基幹作目等の振興（農政課）

地域農業マスタープランに基づき、農山漁村振興交付金やいわて地域農業マスタープラン実践支援事業を活用し、基幹作目である菌床しいたけ栽培用ハウス11棟、雨よけほうれんそう栽培用ハウス6棟などの導入を支援し、経営基盤の強化を図りました。

また、新作目開発実証事業を活用し、当地域の気象条件を生かした高収益作物の導入に向けてズッキーニの栽培実証を行ったところ、7戸30a（前年比2戸9a減）のほ場で生産された4,064kg、1,016ケース（前年比988kg、247ケース増）が出荷されました。

##### ③畜産業の産地化の推進（農政課・産業建設課）

###### ・いわて地域農業マスタープラン実践支援事業

認定農業者、青年農業者、集落営農組織、中心経営体等の育成・確保や、園芸・畜産等の産地拡大の取組を加速するため、園芸6団体、畜産7団体の機械・施設等の生産基盤の整備を支援しました。

###### ・畜産振興総合対策推進指導事業

優良乳用雌牛の能力に応じた選抜確保と効率的な飼養管理のため、酪農家9戸、乳用牛400頭に対して、牛群の検定と乳成分の測定を実施することによる乳量の増量と乳質の改善向上を図るため、検査費の補助を行いました。

###### ・岩手県ブロイラー価格安定対策事業

県内産のブロイラー価格が、東京荷受市場における一定の価格を下回った場合に、生産者に及ぼす影響の緩和を図るため、生産者に対し補填金を交付しました。

###### ・家畜導入事業資金供給事業

肉用牛の家畜購入経費への助成として、事業実施主体（JA）からの申請に基づき、必要額を市が県の補助を受け基金造成し、基金から取り崩して8頭分を交付しました。

#### ④地産地消の推進（農政課）

##### ・地産地消ふれあい給食事業

市内全小中学校を対象に、生産者との交流と地産地消について学ぶ「地産地消ふれあい給食（鮭、短角牛、ほうれんそう、しいたけ、計4回）」を実施しました。また、生産者を講師とした出前講座を、食材毎に4校で実施しました。

##### ・食農教育・地産地消推進事業

久慈管内4市町村及び県、農協等で構成する久慈地方農業農村活性化推進協議会の農村活性化部会において、市内産地直売施設に対し、運営強化のための研修や経営指導会を行いました。

#### ⑤都市との交流の推進（産業建設課）

首都圏の消費者と短角牛生産者は、昭和58年より、顔の見える交流を重ね令和元年度で、37回目を迎えました。直接、生産現場を見てもらうことで安心・安全・信頼度を向上させるとともに、販路・消費拡大に繋げ、生産者の生産意欲向上のため取り組みました。

#### ⑥農業環境整備の促進（農政課）

県営ため池等整備事業負担金により、大川目地区の幹線用水路が整備されました。

### 【施策の評価】

#### ①担い手農家の育成・確保（農政課）

園芸及び畜産の農産物系統販売額は、平成30年度24億5,176万円から24億7,121万円と増加しました。目標数値26億8,000万円を約8.4%下回っています。内訳として、畜産物販売実績は、平成30年度14億9,893万円から令和元年度には15億9,443万円に増加し、園芸販売実績は、平成30年度9億5,282万円から8億7,677万円に減少しています。

菌床しいたけでは、夏期の培養管理が順調に進み、高温障害もなくおおむね順調な推移となりましたが、販売額は前年比90.9%（出荷量は前年比95.4%）となりました。一方、ほうれんそうでは、春の価格低迷、秋の台風第19号の影響もあり販売額は前年比90.9%（出荷量は前年比95.4%）となりました。

令和元年度の新規就農者は11人で、目標の7人を大きく上回りました。今後も、農業者の生産基盤の整備による生産拡大及び担い手の育成・確保を支援します。

## ②基幹作目等の振興（農政課）

菌床しいたけは、大規模経営体による生産開始から系統販売額の増加が期待できます。雨よけほうれんそうは、高齢化による離農から出荷量が減少傾向にあるため、省力化によるコスト削減や規模拡大による生産量の増加など、引き続き事業導入による支援を継続する必要があります。

ズッキーニは、指導会の開催などで栽培技術が向上し、単収が向上しています。また、系統出荷の他、産直にも出荷されていることから生産量は増加しています。実証により、栽培管理が容易である一方、土地利用型作目のため大きい面積での栽培を行わないと系統販売の出荷単位で出荷できないこと、収益性が向上しないといった課題があることから、引き続き作型について検証を行っていきます。

## ③畜産業の産地化の推進（農政課・産業建設課）

畜産物の系統販売実績は、平成30年度14億9,893万円から令和元年度には15億9,443万円に増加しています。9月には台風15号、10月には台風19号など多くの自然災害が発生したところであり、特に台風19号においては、大雨によるロールベールサイレージの流出や草地の浸水等の被害はあったものの、大きな被害には至らず、おおむね良質な飼料生産確保がされました。販売額（JA出荷）は、ホルスタインが前年比89.4%と減少したのに対し、生乳が前年比103.6%、短角肥育牛が前年比123.2%、和牛子牛が前年比117.2%となり、概ね増加しました。

市内全体での飼養農家数が減少傾向にあることから、今後も担い手の確保、生産基盤の強化、規模拡大及び作業効率の向上に向けた対策を関係機関・団体と連携し推進していきます。

## ④地産地消の推進（農政課）

### ・地産地消ふれあい給食事業

「地産地消ふれあい給食の日」を設け、市内全小中学校を対象に、久慈市産の旬の食材4品目をメインとした給食を提供するとともに、生産者を講師とした出前講座と食生活改善推進員による食育の勉強会を実施したことにより、農林水産業への理解と食育の推進が図られました。今後も、地元農林水産業への理解と食育の推進が図られるよう、継続的に実施します。

### ・食農教育・地産地消推進事業

市内産地直売施設に対し、運営強化のための研修や経営指導会を行い、産地直売施設販売額は、平成30年度の4億3,594万円から令和元年度は4億2,067万円推移し、増加率は3.94%減となりました。今後も産直施設の活性化のため、継続的に支援します。

⑤都市との交流の推進（産業建設課）

ベコツアー参加者数は、44人となり、引き続き交流・関係人口の増加に向けて取り組みます。また、受け入れ側のおもてなし方法などを見直し、1人でも多い交流・関係人口拡大に向け、関係機関との連携を強化していきます。

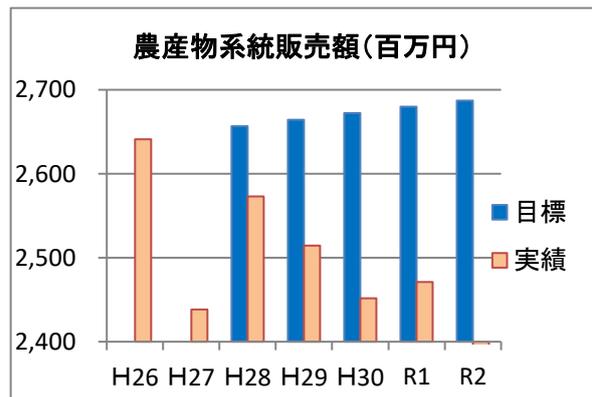
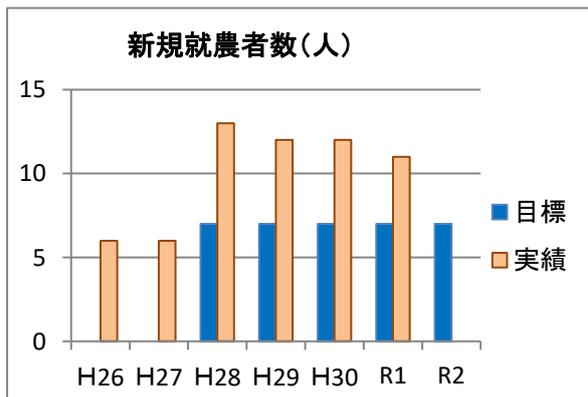
⑥農業環境整備の促進（農政課）

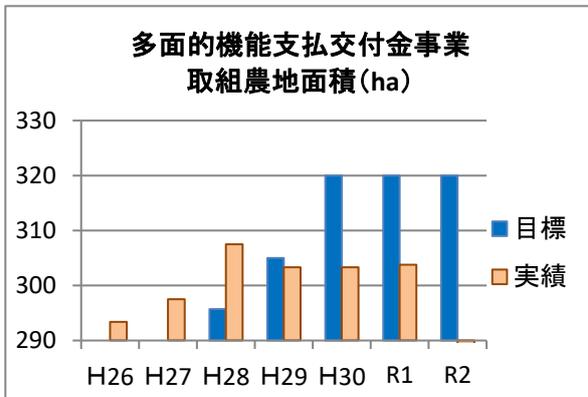
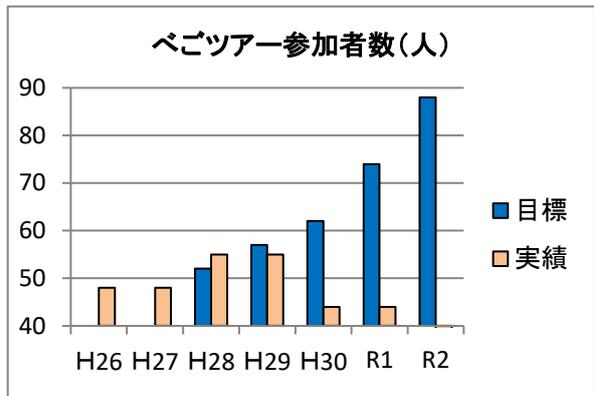
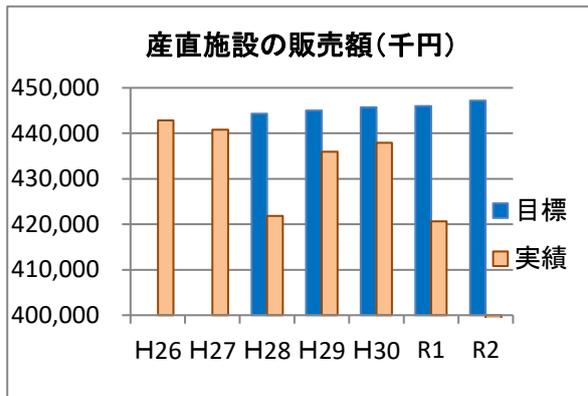
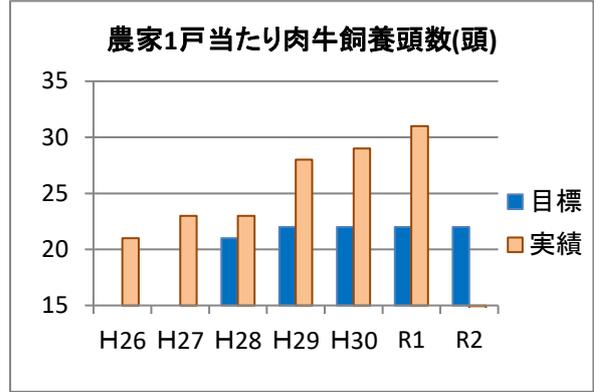
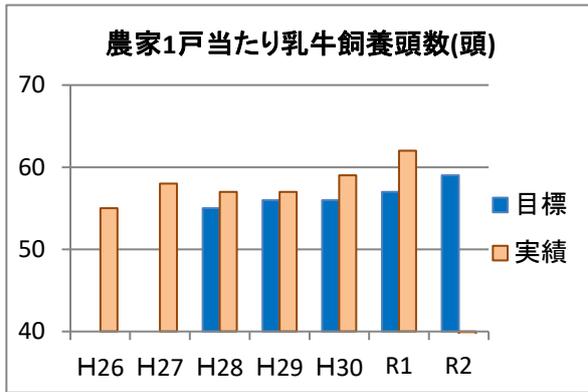
多面的機能支払交付金事業取組農地面積は303.8haと前年度と同様であり、目標を下回っています。本事業は、地域住民の活力により遊休農地の解消、水路及び農道の整備に効果的であると認識しており、引き続き農業環境整備に取り組みます。

【指標の状況（詳細）】

指標（単位）	基準値	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
	(H26)							
新規就農者数（人）	6	目標		7	7	7	7	7
		実績	6	13	12	12	11	—
		達成率		186%	171%	171%	157%	—
農産物系統販売額（百万円）	2,641.0	目標		2,656.6	2,664.4	2,672.2	2,680.0	2,687.0
		実績	2,438.3	2,572.9	2,514.6	2,451.7	2,471.2	—
		達成率		97%	94%	92%	92%	—
農家1戸当たり乳牛飼養頭数（頭）	55	目標		55	56	56	57	59
		実績	58	57	57	59	62	—
		達成率		104%	102%	105%	109%	—
農家1戸当たり肉牛飼養頭数（頭）	21	目標		21	22	22	22	22
		実績	23	23	28	29	31	—
		達成率		110%	127%	132%	141%	—
産直施設の販売額（千円）	442,832	目標		444,300	445,000	445,700	446,000	447,200
		実績	440,805	421,811	435,966	437,935	420,666	—
		達成率		95%	98%	98%	94%	—
ベコツアー参加者数（人）	48	目標		52	57	62	74	88
		実績	48	55	55	44	44	—
		達成率		106%	96%	71%	59%	—
多面的機能支払交付金事業取組農地面積（ha）	293.4	目標		295.7	305.0	320.0	320.0	320.0
		実績	297.5	307.5	303.3	303.3	303.8	—
		達成率		104%	99%	95%	95%	—

※下線部：過年度実績値について、精査により修正。





## 第4章 基礎戦略3

### 資源を生かす魅力とやりがいのある産業のまちづくり

#### 第2節 林業の振興

##### 【令和元年度の取組】

###### ①林業基盤の整備（林業水産課）

森林経営計画に基づき、市有林の立木売却や伐採跡地における造林及び下刈りを実施しました。

###### ②日本一の炭の里づくりの推進（林業水産課）

日本一の炭の里づくり構想推進協議会において、久慈産業まつり等のイベントでのPR活動や木炭の輸出に関する手続きの打ち合わせ等を行いました。

また、木炭生産施設整備事業では、原木割り機1台購入の補助を行いました。

###### ③特用林産物生産の振興（林業水産課）

久慈市しいたけ生産推進協議会にて、しいたけ栽培技術等に係る研修参加や全国品評会への出席を支援しました。また、原木しいたけ生産拡大支援事業では小型フォークリフト1台の整備補助を行いました。特用林産新規参入支援事業では、新規参入者が1件あり、原木しいたけ用ほだ木の造成（70m<sup>3</sup>）に要する経費の補助を行いました。

##### 【施策の評価】

###### ①林業基盤の整備（林業水産課）

森林の管理については、平成31年4月に森林経営管理制度が施工され、二酸化炭素排出抑制や災害防止の観点からも重要視されています。市有林においても、適正な管理により財産価値を高め、将来的な歳入確保につながることから、今後も継続して整備を推進します。

未利用材の活用量は、市内で木質バイオマス熱供給施設が稼働していることから、年々増加しています。今後も、地域木材の有効活用と地産地消の推進に取り組みます。

###### ②日本一の炭の里づくりの推進（林業水産課）

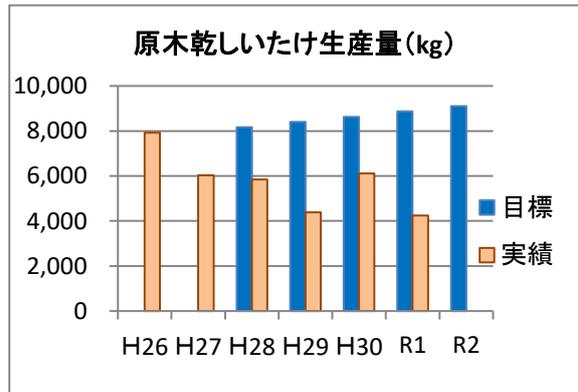
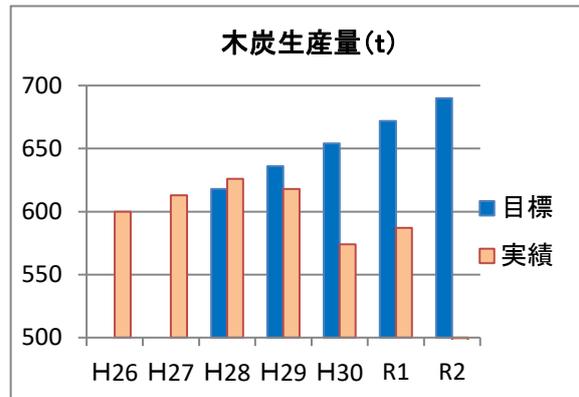
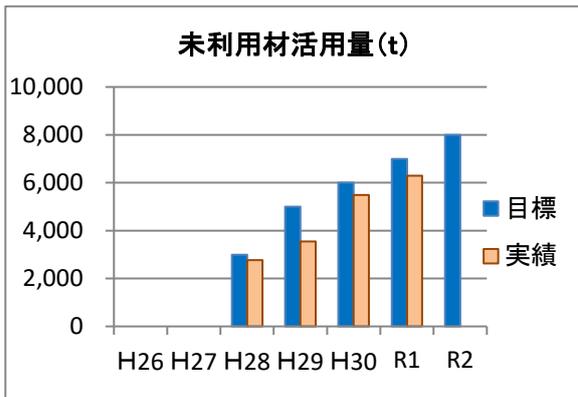
木炭生産量は横ばいで推移しています。今後は、G I 認証によるブランド化を背景として新たな販路拡大に努め、生産施設の支援等を行っていきます。

###### ③特用林産物生産の振興（林業水産課）

原木乾しいたけの生産量は、4,249kgと目標を下回っております。当地方の乾しいたけは全国でも高い評価を得ていることから、今後も生産者に対する支援を行っていきます。

【指標の状況（詳細）】

指標（単位）	基準値 (H26)	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
	未利用材活用量（m <sup>3</sup> ）		0	0	2,772	3,543	5,487	6,295
木炭生産量（t）	600	目標	618	626	618	574	587	—
		実績	613	626	618	574	587	—
		達成率	101%	97%	88%	87%	—	
原木乾しいたけ生産量（kg）	7,921	目標	8,158	8,396	8,633	8,871	9,109	—
		実績	6,030	5,846	4,390	6,110	4,249	—
		達成率	72%	52%	71%	48%	—	



## 第4章 基礎戦略3

### 資源を生かす魅力とやりがいのある産業のまちづくり

#### 第3節 水産業の振興

##### 【令和元年度の取組】

##### ① つくり育てる漁業の推進（林業水産課）

水産物の安定的、持続的な供給を維持するため、ウニ、アワビ、サケ等の種苗・稚魚の放流を実施してきました。

また、つくり育てる漁業の推進策として、ナマコの増殖試験や湾内の環境調査など、計画的かつ安定的な生産のため増養殖に関する試験を行いました。

##### ② 漁港漁村の整備（林業水産課・上下水道整備課※漁業集落排水）

###### ・漁港施設基盤整備事業

水産物の安定供給の基盤となる漁港施設の整備を計画的に進めるため、小袖漁港の北防波堤改良工事を継続して実施しました。また、漁港機能の保全のため、小袖漁港の橋梁の詳細設計を実施しました。県事業では、久喜漁港の南防波堤改良工事を継続して行ったほか、用地舗装を行い、令和元年度で事業が完了しました。

###### ・漁業集落環境整備事業

漁村の生活環境改善のため、白前・本波地区は集落道と集落排水工事、大尻地区は集落排水工事を継続して実施しました。

###### ・漁場整備事業

水産物の水域環境の改善のため、県事業により夏井漁場の増殖場整備を継続して行い、令和元年度で事業が完了しました。

##### ③ 内水面漁業の振興（林業水産課）

河川における淡水魚族の保護と水産資源の確保を図るため、淡水魚であるアユ、ヤマメ及びイワナの放流事業を行いました。

##### ④ 担い手育成対策（林業水産課）

国の支援策である「新規漁業就業者総合支援事業」を実施しました。また、久慈市漁業就業者育成協議会により、新規漁業就業を希望している方を把握するため実態調査を実施し、候補者リストを作成したほか、新規漁業就業者の確保・育成のための具体的な支援策について協議しました。

##### ⑤ 水産物の販売力の向上（林業水産課）

消費者から選ばれる産地となるよう高度衛生管理手法に基づき、産地関係者のための衛生品質管理講習会を実施するなど、魚市場における安心・安全な食材の供給体制に努めました。また、久慈市漁業協同組合等の関係機関と連携し、水揚げ強化対策としての巻き網船の誘致活動の実施や「ギンザケ」及び「ナマコ」など、久慈の水産ブランドの確立に向け取り組みました。

## 【施策の評価】

久慈市営魚市場の水揚実績は、数量で7,112トン、前年度比96.1%、金額は13億6,208万円で、前年度比79%となっており、数量、金額ともに減少となりました。理由としては、当市場の主力魚種であるスルメイカ、更に秋サケの不漁が重なったことが挙げられます。水揚げ実績は、漁場環境や外来船の入港状況にも影響を受けることから、今後も久慈市漁業協同組合等と連携し、関係漁協や船主、関係団体を訪問する漁船誘致活動を推進するなど、外来船受け入れ体制の強化に努めます。

### ①つくり育てる漁業の推進（林業水産課）

サケ、ウニ、アワビの稚魚・種苗放流実績は、東日本大震災前と比較し、ウニ以外は震災前を上回る規模で推移しています。なお、ウニの種苗放流、アワビ種苗放流の縮小傾向に加え、不漁によりサケ稚魚の数量が確保できず、縮小傾向になっています。

特に、ウニ種苗放流数の大幅な減少は、磯焼けを防ぐための取組の一環であります。

稚魚、稚貝の種苗の放流については、資源の維持確保のみならず、漁家の経営安定、担い手育成に重要な要素であり、今後も毎年一定数量の放流の継続が必要です。

### ②漁港漁村の整備（林業水産課）

#### ・漁港施設基盤整備事業

小袖漁港、久喜漁港の整備を実施したところですが、水産物の安定供給の基盤となる漁港施設の整備や機能の保全のため、今後も継続して取り組みます。

#### ・漁業集落環境整備事業

白前・本波地区は集落道と集落排水工事、大尻地区は集落排水工事を継続して実施しておりますが、まだ完了していないことから、今後も漁村の生活環境改善のため、継続して取り組みます。

#### ・漁場整備事業

夏井漁場の増殖場整備を継続して実施し、令和元年度に完了したところですが、地元からの要望も多く、また、水産物の水域環境の改善、つくり育てる漁業の推進のため、今後も継続して取り組みます。

### ③内水面漁業の振興（林業水産課）

淡水魚の放流事業により、河川における淡水魚族の保護と資源確保を行うことで河川環境の維持・向上が図られるため、今後も継続して放流事業を実施することが必要です。

### ④担い手育成対策（林業水産課）

各種取組により令和元年度は2名を新規漁業就業者として確保しました。

しかし、漁業者（久慈市漁業協同組合の組合員）の減少が続いていることから、今後も、久慈市漁業協同組合及び関係機関・団体と一体となって、担い手の確保対策に努める必要があります。

⑤水産物の販売力の向上（林業水産課）

令和元年度の共販品取扱実績は、2億9,923万円で前年度比19%の減となりましたが、主力のウニ、アワビは高い単価となったものの、水揚げ数量が低迷したことが要因であり、久慈港水揚げ量も低調であることから、販路開拓、拡大により安定した販売力向上につなげる活動の支援に努めます。

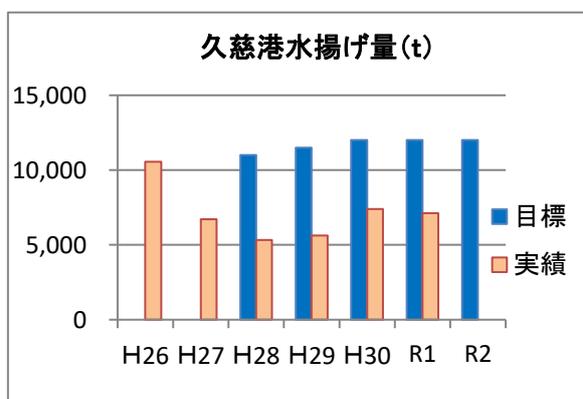
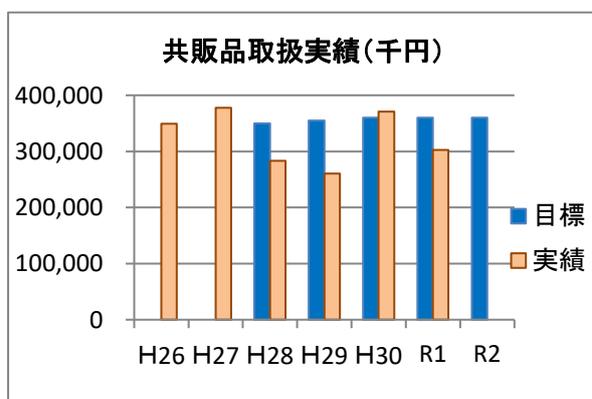
「ギンザケ」及び「ナマコ」については、養殖及び増殖に向けて実証事業中であり、水揚げに対する影響は大きくないものの、現時点における結果は良好であることから、引き続き久慈の水産ブランドの確立に向け取り組む必要があります。

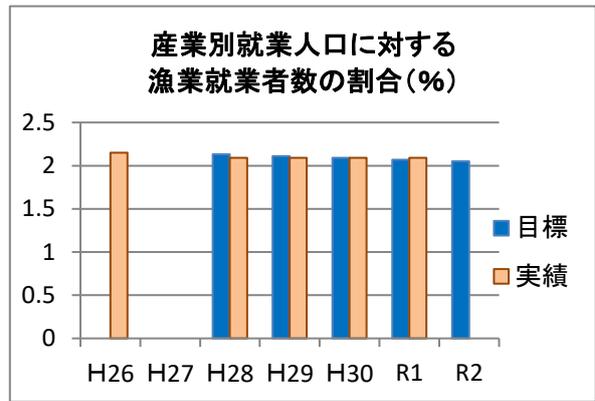
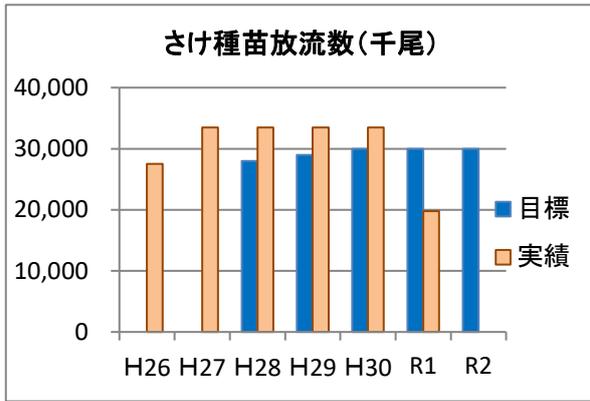
また、消費者から選ばれる産地化の取組については、産地関係者に対する衛生品質管理講習会を実施していますが、市営魚市場における県版HACCPの認定が2年連続（H30・R1）で外れていることから、引き続き魚市場における安心・安全な食材の供給体制を強化する必要があります。

【指標の状況（詳細）】

指標（単位）	基準値	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
	(H26)							
共販品取扱実績（千円）	349,179	目標	350,000	355,000	360,000	360,000	360,000	360,000
		実績	377,926	283,116	260,438	371,016	302,452	—
		達成率	—	81%	73%	103%	84%	—
久慈港水揚げ量（t）	10,560	目標	11,000	11,500	12,000	12,000	12,000	12,000
		実績	6,714	5,329	5,628	7,403	7,113	—
		達成率	—	48%	49%	62%	59%	—
さけ種苗放流数（千尾）	27,500	目標	28,000	29,000	30,000	30,000	30,000	30,000
		実績	33,500	33,500	33,500	33,500	19,800	—
		達成率	—	120%	116%	112%	66%	—
産業別就業人口に対する 漁業就業者数の割合 （%）	2.15	目標	2.13	2.11	2.09	2.07	2.05	—
		実績	—	2.09	2.09	2.09	2.09	—
		達成率	—	98%	99%	100%	101%	—

※産業別就業人口に対する漁業就業者数の割合：下線部について、H27国勢調査を基に修正。





## 第4章 基礎戦略3

### 資源を生かす魅力とやりがいのある産業のまちづくり

#### 第4節 商工業の振興

##### 【令和元年度の取組】

##### ①起業家に対する支援（企業立地港湾課）

創業希望者に対しては、「久慈市創業支援事業計画」に基づき、商工会議所、金融機関等の認定支援機関と連携し、個別相談等きめ細やかなフォローアップに努めました。

また、起業家等へ貸付する「久慈・ふるさと創造基金」の運営費として、久慈商工会議所に対して運営費補助を行うとともに、創業希望者への個別相談やホームページ等を通じて利用促進に努めました。

##### ・久慈市創業支援事業計画に基づく支援 ※再掲

平成28年1月に国に認定された「久慈市創業支援事業計画」に基づき、創業希望者に対して関係機関と連携して、事業計画作成から創業に至るまで切れ目のない支援を行いました。久慈市が行った個別相談件数は6件であり、うち2件が創業となりました。

##### ・久慈・ふるさと創造基金事業 ※再掲

創業希望者等に対し、久慈商工会議所が資金貸付する「久慈・ふるさと創造基金」に係る運営経費への補助金交付を行うとともに、新たな支援企業の掘り起しと制度周知に努めました。令和元年度の新規貸付は、1件、650万円でした。

久慈・ふるさと創造基金運営補助金 425千円

##### ②中心市街地の活性化（商工市街地振興課）

久慈駅前整備事業において、情報交流センター等の整備を実施しました。

観光交流センター魅力向上事業において、観光交流センター「風の館」における定期イベントの開催や観光PR活動を実施し、屋外イベントや市民カルチャー講座等に延べ8,889名が参加しました。

##### ③商工業の振興（商工市街地振興課）

中小企業振興資金の新規融資件数は、128件と前年度に比べて減少しています。また、過年度融資分を含めた信用保証料及び利子の補給額については23,957千円と前年度に比べて増加しています。

##### ④雇用機会の創出（企業立地港湾課）

##### ・企業誘致活動の実施

拠点工業団地等への企業誘致を図るため、地域資源の掘り起し、企業訪問、産業人とのネットワークづくりに積極的に取り組みました。（市外企業訪問回数12回）

##### ・誘致企業等へのフォローアップ活動の実施

誘致企業等による新事業展開、事業高度化や新たな販路開拓による地域経済の拡大、雇用の場の創出を図ることを目的に、市が実施する各種支援制度の利用提案のほか、国・県等が実施する各種補助金等への申請支援や販路開拓に係るマッチング支援を行いました。（市内企業訪問回数114回）

##### ・高齢者の雇用促進

高齢者の雇用促進に取り組む久慈市シルバー人材センターに対して運営経費として9,700千円（前年度比1,000千円増）の助成を行いました。

⑤内発型産業の創出（企業立地港湾課）

・研究機関等との連携支援

岩手大学等と連携し、技術相談など事業者の課題解決のため、研究機関との連携促進を図りました。

・創業支援事業

平成28年1月に国に認定された「久慈市創業支援事業計画」に基づき、創業希望者に対して関係機関と連携して、事業計画作成から創業に至るまで切れ目のない支援を行いました。久慈市が行った個別相談件数は6件であり、うち2件が創業となりました。

・久慈・ふるさと創造基金事業 ※再掲

創業希望者等に対し、久慈商工会議所が資金貸付する「久慈・ふるさと創造基金」に係る運営経費への補助金交付を行うとともに、新たな支援企業の掘り起しと制度周知に努めました。令和元年度の新規貸付は、1件、6,500千円でした。

久慈・ふるさと創造基金運営補助金 425千円

**【施策の評価】**

①起業家に対する支援（企業立地港湾課）

令和元年度において「久慈市創業支援事業計画」に基づく久慈市が行った個別相談件数は6件であり、うち2件が創業となりました。創業希望者による「久慈・ふるさと創造基金」の新規活用事案は1件であり、引き続き、商工会議所、金融機関等の認定支援機関と連携し、きめ細やかなフォローアップに取り組めます。

②中心市街地の活性化（商工市街地振興課）

令和元年度のやませ土風館・駅前複合施設の利用者数は745,534人となり前年度より減少しました。利用者数は、前年度同水準で推移していましたが、1月以降は新型コロナウイルスの感染拡大により、観光客等の移動が制限され、下期は大きく停滞しました。

今後においても、新型コロナウイルスの影響によりイベント等が中止され、利用者の減少が見込まれますが、久慈市観光物産協会や街の駅久慈、商店街等と連携しながら、利用者数の増に取り組めます。

③商工業の振興（商工市街地振興課）

中小企業振興資金の融資件数は、令和元年度は128件で、平成30年度に比べ40件増加し、令和元年台風第19号災害及び新型コロナウイルス感染症の影響もあり中小企業者を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあることから、引き続き融資制度の活用により商工業の振興に努めます。

④雇用機会の創出（企業立地港湾課）

誘致企業等の従業員数は、前年度と比較し111人増の1,734人となりました。一方、誘致企業等以外の意欲ある事業者の中には、業容拡大・退職者補充のため求人を行っているものの、人が集まらない状況にあり働く人にとって魅力ある職場づくりを行うことが喫緊の課題となっています。

市内事業者の魅力向上や創業のためには、新事業展開、事業高度化、新たな販路開拓や地域経済の拡大が不可欠であり、市では、これらに取り組む事業者を支援するため令和元年度は114回のフォローアップ訪問を行いました。この訪問を通じ、企業が抱える課題の掘り起し、国・県が実施する各種補助金等への申請支援や販路拡大に係るマッチング支援等を行いました。

⑤内発型産業の創出（企業立地港湾課）

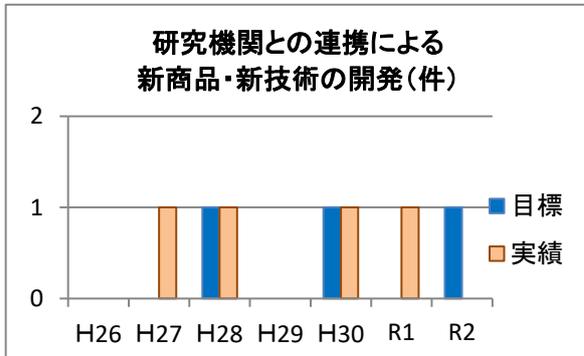
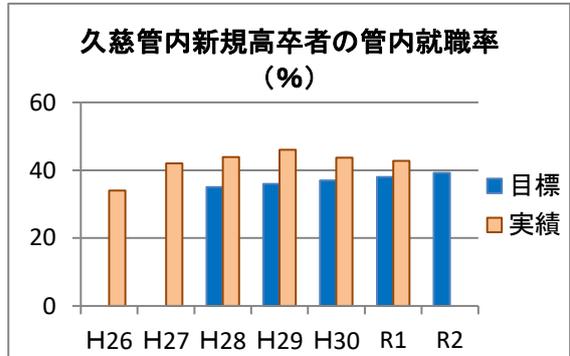
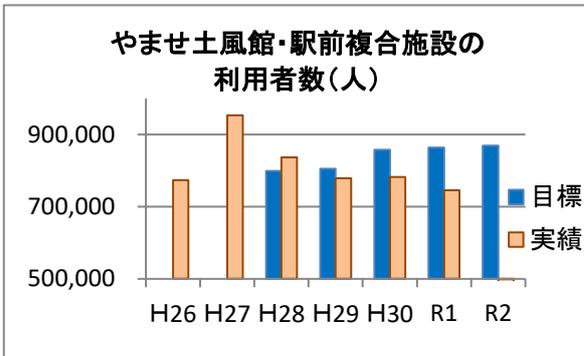
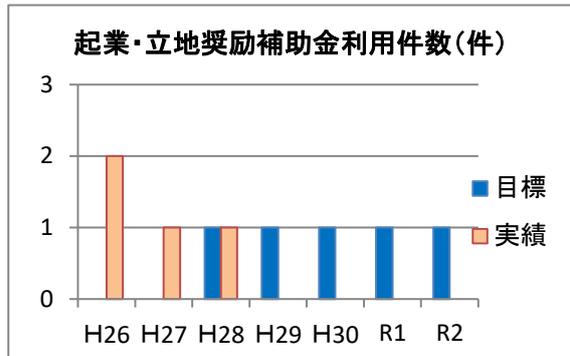
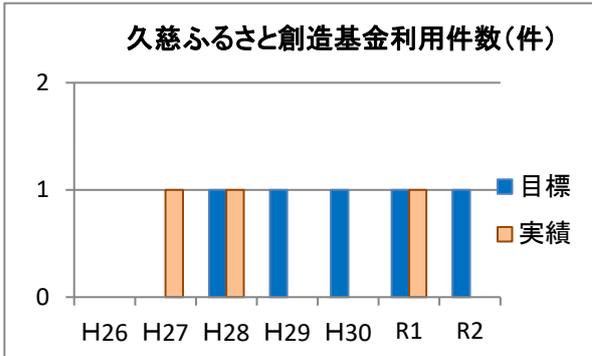
研究開発等連携促進事業補助制度の活用は1件であり、販路拡大支援事業補助制度の活用については0件でした。

創業支援については、令和元年度において2件の創業となりました。創業希望者による「久慈・ふるさと創造基金」の新規活用は1件であり、引き続き商工会議所、金融機関等の認定支援機関と連携し、きめ細やかなフォローアップに取り組めます。

【指標の状況（詳細）】

指標（単位）	基準値	区分	H 27	H 28	H 29	H 30	R1	R2
	(H26)							
久慈ふるさと創造基金利用件数（件）	0	目標		1	1	1	1	1
		実績	1	1	0	0	1	—
		達成率		100%	0%	0%	100%	—
起業・立地奨励補助金利用件数（件）	2	目標		1	1	1	1	1
		実績	1	1	0	0	0	—
		達成率		100%	0%	0%	0%	—
やませ土風館・駅前複合施設の利用者数（人）	773,659	目標		799,000	805,000	858,000	864,000	869,000
		実績	953,307	836,701	778,744	782,557	745,534	—
		達成率		105%	97%	91%	86%	—
久慈管内新規高卒者の管内就職率（%）	34.0	目標		35.0	36.0	37.0	38.0	39.2
		実績	42.0	43.9	46.0	43.7	42.8	—
		達成率		125%	128%	118%	113%	—
研究機関との連携による新商品・新技術の開発（件）	0	目標		1	0	1	0	1
		実績	1	1	0	1	1	—
		達成率		100%	0%	100%	100%	—

※やませ土風館・駅前複合施設の利用者数のH26の欄の数値は、H24の数値を使用。



## 第4章 基礎戦略3

### 資源を生かす魅力とやりがいのある産業のまちづくり

#### 第5節 観光の振興

##### 【令和元年度の取組】

##### ①総合産業としての観光の推進（観光交流課・産業建設課）

地域の観光資源として大きなウエイトを占める観光施設の維持管理を行うとともに、関係機関、一次産業従事者、商工業者や地元住民とともに誘客イベントを実施しました。また、地域の魅力ある農林水産物を活かした物産販売や、地域間交流事業に対し補助を行いました。情報発信については、テレビや雑誌等に情報を掲載し情報発信に努めるとともに、積極的なロケ誘致及び撮影支援によりPRを行いました。

##### ②お祭り・イベントの充実（観光交流課・産業建設課）

久慈秋まつりの手作り山車制作費補助金を交付するとともに、制作過程をSNSで発信しました。また、継続的なイベントに加え、当市をロケ地とした映画「星屑の町」の関係者試写会、出演者等を招致してのプレミア上映会を行いました。

##### ③観光資源・施設の整備と観光ルート化の推進（観光交流課・産業建設課）

波浪で被災した侍浜海水プールの修繕、台風で被災した舟渡海水浴場の復旧などの観光施設の整備を行いました。また、湯量の減少した交流促進センター（新山根温泉）の原因調査を行いました。

また、当市の観光資源の一つである三陸ジオパークの再認定に向け啓発活動やツアーの実施等関係団体と連携して実施しました。

##### ④情報発信の強化（観光交流課）

観光資源の情報等について関係機関と連携し情報誌への掲載や、インターネット、SNSなどを活用し情報の発信を行いました。また、外国人観光客向けに多言語化したサインやパンフレット等を整備しました。

##### 【施策の評価】

##### ①総合産業としての観光の推進（観光交流課・産業建設課）

積極的なロケ誘致により映画「星屑の町」の誘致しました。今後も、注目度の高い映像作品の誘致に努め、発信力の強いPRに取り組んでまいります。

観光施設への周遊バスの運行や、観光タクシープランへの助成を行いました。引き続き利用しやすい2次交通の確保に向けて関係機関と検討します。

##### ②お祭り・イベントの充実（観光交流課・産業建設課）

久慈秋まつり観光客数は、台風災害により中止となった平成28年を除き天候による増減を繰り返しながらも微減の傾向にありますが、市最大の集客力のあるイベントであることから各山車組等と連携し安全に配慮しながら継続実施できるよう、今後とも支援していく必要があります。

また、当市の伝統文化や特産品等を活用したイベントを継続して実施しており、今後とも観光客のニーズ等を捉えながら「また来たい」と思えるよう更なる魅力向上に努めます。

③観光資源・施設の整備と観光ルート化の推進（観光交流課・産業建設課）  
市所管施設について災害復旧を行いました。令和2年度に繰り越したものの  
について引き続き復旧を行う必要があります。  
交流促進センター（新山根温泉）の源泉については、原因調査や源泉復旧、  
新設工事に引き続き取り組みます。

④情報発信の強化（観光交流課）  
観光地の情報を入力する手段はSNSなどのインターネットへ移行してきてお  
り、北三陸「あまちゃん観光推進協議会」のSNSフォロワー数は前年度1,162件  
から1,862件へ増加しました。今後もフォロワーの獲得に向けて定期的な情報発  
信に努めます。  
また、外国人観光客に向けた情報の多言語化による魅力の発信に努めます。

### 【指標の状況（詳細）】

指標（単位）	基準値	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
	(H26)							
観光客アンケートの満足度（%）	—	目標	—	54	56	58	60	60
		実績	—	81	※	※	※	—
		達成率	—	151%	—	—	—	—
秋まつり観光客数（人）	109,000	目標	—	110,000	115,000	120,000	125,000	130,000
		実績	80,600	未実施	105,300	75,000	101,500	—
		達成率	—	—	92%	63%	81%	—
案内看板の設置数（基） ※再掲	2	目標	—	5	8	11	14	17
		実績	2	6	12	21	22	—
		達成率	—	120%	150%	191%	157%	—

※観光客アンケートの満足度については、三陸DMOセンターのマーケティング調査結果によるが  
H29～R1は三陸沿岸地域全体のデータのみ公表されていることから、実績値を未掲載とした。  
※H30の秋まつりは雨天により中日延期により、観光客数が大幅に減少した。

